

令和５年度 第１回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

- １．日 時 令和５年７月２５日（火）１０：００
- ２．出席状況 委 員 ９名（川染会長、明吉委員、小須田委員、小林心委員、小林三夫委員、古谷田委員、
泉水委員、橋本委員、服部委員）
事務局 ５名（文化振興課長、文化振興係４名）
- ３．傍聴人 傍聴人なし
- ４．議 題
 - １ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について
 - ２ 令和４年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - ３ 令和５年度文化芸術に関する市民アンケートについて
 - ４ その他
- ５．会議資料
 - 資料１ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について
 - 資料２－１・２ 令和４年度やまと芸術文化ホールの運営状況について
 - 資料３ 令和５年度文化芸術に関する市民アンケートについて

【会議要旨】

１ 大和市文化芸術振興基本計画〔第３期〕実績評価について

○委員

コロナの影響により、事業の中止・縮小となったのは、何年度からか。

○事務局

令和元年度からである。

○委員

施策目標１のモニタリング項目１「過去１年間に於いて１回以上文化芸術の鑑賞を行った市民の割合」は、市外の施設で文化芸術鑑賞をした場合も含むか。

○事務局

市外施設での鑑賞も含む。

○委員

近隣市町村には文化施設が多い。シリウスができる前は、市民は市外の文化施設で鑑賞を行っていた。シリウスができてからは、市民の鑑賞の場となった。市内の文化芸術に関する情報は、市の広報誌等で情報を得ることができるが、市外の文化芸術の情報は少ないため、市民はどのように市外の情報を得ているのか。アンケートで市外施設での鑑賞を含めると、分析が難しくなるのではないか。

○委員

アンケート調査を取る際は、市内・市外施設に分けた方がよいということか。

○委員

その通りである。

○委員

市内の振興状況は、コロナ禍にしては、全体的によいと思う。

資料１全体にイえることだが、モニタリング項目における目標値の設定理由が説明になっていない。

例えば、施策目標 1 の項目 2 では、「毎年 2 % ずつ伸ばす」と記載されているが、なぜ 2 % なのか、理由がない。例えば、神奈川県の子民の鑑賞した割合を目標値設定にした、10 年間で 90 % を目標にするため毎年 2 % を目標設定にした等、次期計画を策定する際は、設定理由を明確にした方がよい。

○事務局

目標値の設定の考え方は、次期計画をつくるうえで、精査して考えていく必要がある。毎年 2 % を目標にしても、必ずしも右肩上がりになるわけではないことや、数値の現状維持で精一杯なこともある。その点を踏まえて、次期計画を策定していく。

○委員

つる舞の里歴史資料館に行く機会が多いが、つる舞の里歴史資料館は、イベントがあると来館者数が増える施設である。専門的な歴史資料があるため、学者タイプの職員がおり、愛想がよくない。来館者に対して、職員から挨拶することがないし、施設の周りに落ち葉があっても放置したままである。文化施設として、来館者に対して積極的に挨拶をし、施設周辺をこまめに清掃するなど、来館者をおもてなしする心を大切にしてほしい。また、トイレを借りに来る市民がいると聞くが、そのような方にもつる舞の里歴史資料館が素晴らしい施設であること知ってもらうためにも、日頃から心がけてほしい。

○事務局

つる舞の里歴史資料館は、住宅街の中にあり、建築当初も、資料館目的に建築された要素がある。そのため、市民がたくさん来てもらっても困るというような意向もあり、住宅街に馴染むような施設となっている。

しかし、資料館としての企画展も行っており、その地域の歴史を知っていただく機能は持っている。シリウスのような集客する性格の施設ではないが、来館者へのおもてなしの気持ちを持つことは必要である。

以前は年に 1 回、企画展を開催していたが、現在は企画展の他に、小さな企画展も開催している。例えば去年は大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の関連のコーナー展示をおこなった。

○委員

考古学や歴史は、県央地域が一体となって取り組むことになる。その地域にお城や歴史的施設があり、また、それが大河ドラマ等テレビで取り上げられると、観光客も増え、その地域の PR になる。実際に歴史的文化財が発掘されても話題になることはないで、どこの市町村も苦勞しているし、従事する職員も削減されている。歴史や文化に関しては、コツコツと PR していくべきである。定期的に小さな企画展を開催するなど、長期的な視点でみていく必要があり、モニタリングや事業実績の数値が低いのはやむを得ないと思う。

○委員

フィルムコミッション事業やショートムービーコンテストに関連して、以前自身の活動で泉の森の郷土民家園を撮影したことがある。市内施設を撮影する際は、施設管理者に撮影許可をとる必要があり、苦勞した記憶がある。団体が施設管理者と直接やり取りするのではなく、調整する窓口があるとよい。

○事務局

映画やテレビ等のロケーション撮影に関する問い合わせや許認可手続き等、調整をかける窓口の役割をイベント観光協会が担っている。泉の森の水車となると環境施設農政部、郷土民家園は文化振興課が所管しているので、各所管に調整が必要になるが、イベント観光協会に撮影依頼をすると調整をしてくれる。

○委員

つる舞の里歴史資料館に関連して、教材用として郷土史を発行しているか。以前沖縄県北大東村に

行く機会があった。北大東村民俗資料館があり、現物資料等はないが、展示パネルは立派であり、大変興味深かった。展示パネルの内容は、郷土史であり、中学校の副読本をパネルにして展示していた。すでにあるものでも掘り下げていくと、ここまで素晴らしいものができるのだと、感動した。北大東村で育つ子供たちにとっては、郷土に対する自信に繋がるだろう。大和市でも学校教育と郷土史の関係、または市民との関係があれば聞きたい。

○事務局

副読本については、文化振興課から教育委員会へ情報提供して作成している。文化財に関しては、大和市の歴史や市内の文化財に関する報告書や冊子の閲覧・販売を行い、市民に周知している。

○委員

以前、泉の森で薪能をやっており、当時の能舞台は、今は、ふれあいステージという名称になっていた。先日、早朝に泉の森に行ったら、市民が散歩やピクニックをしており、家族連れやご夫婦で賑わっていた。多くの市民が利用しており、池の上にある珍しいステージなので、文化芸術の分野でも活用できたらよいと思う。

○委員

つる舞の里歴史資料館と中央林間図書館がコラボした企画展を実施したことがある。その企画展に触発されて、つる舞の里歴史資料館に行った、という声を聞いたことがある。よい取り組みであり、施設のPRにもなるので、今後も続けてほしい。

○委員

同様の話を聞いたことがある。今後も継続してほしい。

○委員

やまと子ども伝統文化塾の塾生が集まらず、苦慮している。募集チラシを配布しているが、子ども達は目を通しているのか疑問に思うことがある。チラシを見て、参加した人は、この10年で3人程度だと記憶している。参加者が増えないため、団体が近隣の小学校に出向き活動を周知している。チラシの効果があるのか、悩ましいが、やらざるを得ない。

○委員

マスメディアを活用して、PRを行ったとのことだが、保護者を対象に行ったものか。

○事務局

保護者と子どもに向けて行った。華道の教室を番組で取り上げ、実際にお稽古している子どもの様子を放送した。番組を見た子供に興味を持ってもらい、番組を見た保護者からも子どもに参加を促してもらえたらよいと考える。

○委員

子ども向けに発信するのであれば、SNSを活用したらどうか。

○委員

SNSを活用したPRは、よいと思うが、保護者がついていけないような危険性もあるので注意しなければならない。周知方法も色んな角度から考えていくべきだ。

保護者の意識改革が必要なのではないか。習い事の費用の支払いや、子どもの送迎も保護者が行うので、その点を理解している保護者の子どもが参加している。伝統文化を習うメリットを保護者に伝えないと、子ども達は参加しないと思う。自身の施設でもバレエやピアノの教室等を開催しているが、同様のことを考えながら企画している。まずは、保護者に文化芸術に触れるメリットを伝える取組を考えた方がよい。

伝統文化塾は10年以上続いており、運営システムはできているので、保護者に向けた対応策を考えていくとよい。

○委員

山梨県の取組で、大学生と小学生が参加してパンフレットを作成している。大人の視点とは違い、子どもの視点が入っており、子どもが関心を持つようなデザインやレイアウトになっている。大和市も子どもとタイアップし、新しい視点を入れていけるとよい。ジェネレーションの縦割りをつくれるとよいのではないかな。そしたら新しい取り組みができるのではないかな。

ハード面では、施設の建築は進んでいるのでソフト面の取組が必要であると感じている。

○委員

施策目標2の主な取組と実績について、「博物館実習生の受け入れ、実習の実施」は、学芸員を目指す学生を受け入れているのか。また、大和市には博物館と言われる施設があるということか。

○事務局

その通りである。将来学芸員を目指す学生を受け入れている。つる舞の里歴史資料館は、博物館に類する施設に該当する。

○委員

先ほど、幅広い世代を交えた取り組みについて話があったが、施策目標4に反映させていくとよいのではないかな。

○委員

担い手を育てるというのは、子どもを育成することだ。その育成した子どもたちが担い手となった人数を把握するとよい。

また、魅力ある事業の実施も必要である。市民が大和市を好きになってもらう取り組みを考えていく必要がある。

事業の実績数値の結果だけで否定するのではなく、経年変化をみるために数字は必要ではあるが、取組内容を見ていくことも大切だ。

○委員

YAMATO ART100 は、全国でもあまりやっていない、大和市の規模だからできる事業である。参加する団体も質のよい企画を実施している。パンフレットを作成し、市内で配架したり、広報やまにに掲載しているので、市内の文化芸術を発信するよい機会だ。

文化芸術団体が営利団体と認識され、広報誌に記載されないケースを聞いたことがある。実際は、料金を徴収しても事業費として消えてしまうので、営利団体ではない。民間の芸術文化事業を広報誌に掲載するというのは画期的だ。

○委員

広報誌は、ジャンルごとに掲載されていないので、自分の興味ある記事を見つけにくい。また、転入者などの市内の文化芸術の情報を認知していない人への対応として、YAMATO ART 100 の号外版を広報やまとと併せて配布するなど、知らせていけるとよい。

○事務局

広報やまとは、市政情報全般を掲載しているので、紙面に限りがあり、文化芸術を大きく掲載することは難しい。

先ほど、参加している子ども達にパンフレット作成に携わってもらうという意見があり、よいヒントを頂いた。現在のチラシは、開催教室、日時、場所等を記載しているが、大人の目線ではなく、こどもの目線で、子どもたちの体験した楽しさを記載し、チラシのデザインを行うのがよいと思った。受講生集めに苦勞している団体も、参加した子どもから、楽しさを伝えてもらうことで、子ども達から共感を得られるのではないかな。今後チラシを作成する手法として参考とさせてもらう。

○委員

市民の掲示板について、以前は広報やまとに掲載されていたが、現在はやまとニュースに掲載されている。自身の団体のイベントは、長年市民の掲示板に掲載している。来場者から、広報やまとに掲載

載されていないと、問い合わせを受けたことがあった。市民の掲示板がやまとニュースに移行してから、まだ市民に浸透していない点や、やまとニュースを見ずに捨ててしまう人もいるようだ。文化芸術に関する情報が市全体に伝わる方法を考えなければならない。

○委員

最近日本語を勉強する外国人が増えており、日本語を教える人材が足りない。大和市の外国籍の割合は約３％だが、計画に掲げている外国文化の交流等の取組は大切であり、大和市の文化振興にも必要である。海外アーティストを招聘したことが重要ではなく、海外の音楽や美術を取り入れ、日本人が作る企画の方が重要である。

○委員

世界料理の屋台村では、外国の料理を売っているが、外国人と一緒に郷土料理を作るなど、触れ合う時間が必要だと思う。

○委員

大和市は外国籍市民が多いと聞いた。ただイベントを開催するのでは、市民目線が欠けているのではないか。市民として外国人がいるので、イベント以外の発想も必要である。

2 令和４年度やまと芸術文化ホールの運営状況について

○委員

現在でもバックステージツアーは開催しているのか。また、引地台小学校が芸術鑑賞をしたようだが、アウトリーチも多くの小学校で実施できるとよい。

○事務局

市から指定管理者に、人材育成事業を行うように仕様書で定めており、その一環でバックステージツアーや舞台芸術の研修を実施している。最近では、シリウス全体で人材育成事業行っており、図書館では司書の体験事業を行っている。

○委員

「こどものための楽器体験 PAN NOTE MAGIC for KIDS」はメインホールで実施しているが、参加者が３６名である。参加者が少ないのに、会場がメインホールは適正か。メインホールの利用料金は高いので、参加人数を増やす努力はした方がよい。子ども達がメインホールで発表することは、よい経験なので、学校や子供会などにアプローチして参加者が増えるとよい。

○事務局

指定管理者としても、子ども達に手厚い体制を整えて行いたい意図もあり、少人数の定員となった。大きな舞台で発表することは、それ自体が子どもにとって貴重な体験であると考えている。一方で、メインホールの定員を考えると、参加者数では少ないので、指定管理者にも情報共有し、検討してもらいたい。

○委員

「こどものための楽器体験 PAN NOTE MAGIC for KIDS」について、メインホールが適正であるかは、考えた方がよいが、参加者から今後も継続してほしいとの声が届いている。継続していくうちに、波及効果もあると思うので、参加者を増やしていけたらよい。

○委員

自身の活動でもメインホールを使用したことがあるが、音響設備が大変よい。また、子ども達が大きなステージで披露する経験は貴重であり、自信に繋がるので、メインホールを使用した方がよい。

○委員

事前講座である１０月１日の「憧れのアーティストによる夢のレッスン永峰高志ヴァイオリン・マ

スタークラス」の参加者は21名であり、11月27日の「N響メンバーによる弦楽四重奏」の参加者は、723名である。事前講座を行わなくても本公演の参加者は多かったのではないかと。PRを兼ねて事前講座が開催されたと思うが、効果がなかったのではないかと。

○事務局

指定管理者の意図としても、PRを兼ねて事前講座を開催していることもあるが、音楽や文化芸術に関心を持ってもらう狙いもあるので、参加者数で良し悪しはつけられないが、費用対効果を精査しつつ指定管理者と協議する必要はある。事業のPRが不足していたのか、関心度が低かったのか等分析していく必要がある。

○委員

稼働率が100%近くあり、素晴らしいが利用区分単位では70%台の月もある。すでに働きかけていると思うが、近隣市町村の学校の吹奏学部や音楽団体等に働きかけ、稼働率100%を目指してほしい。

文化振興課が所管ではないと思うが、生涯学習センターのスタジオの予約が取れない。また、市内で練習できる場所が少ない。プロのアーティストだけではなく、活動者の練習場所も確保できるとよいので、生涯学習センターの会議以外の利用用途も把握できた方がよい。

○委員

開館3年目までは、質の高い事業を展開していたが、最近は全国どこでも鑑賞できるような内容である。指定管理者の自主事業の内容は、市と指定管理者で協議して決めているのか。

○事務局

指定管理者の仕様書に年間実施本数を定めており、それを基に、施設運営の側面も考慮しながら次年度の実施内容を指定管理者が決めている。

○委員

指定管理者は、営利企業であり、利益追求が必要。赤字が出ないように、事業内容は計画してほしい。また、やまと芸術文化ホールを利用してもらうためにも、市がマスコミに働きかけ、収録会場として利用してもらい、市のPRができるとよい。

○委員

資料に収入のみが記載されているが、不要ではないか。収入のみ記載していると、市は利益を得ているように見え、市民に誤解を招く恐れがある。もし記載するのであれば、支出と併せて記載した方がよい。

○事務局

記載内容は検討する。

3 令和5年度文化芸術に関する市民アンケートについて

○委員

問8「大和市の文化施設の利用状況」について、図書館を利用している市民の割合が一番高いが、図書館はいつも満席なので想定していたよりも低い。シリウスは市外の方も利用しているが、市民はどのくらい利用しているだろうか。

○事務局

指定管理者が来館者にアンケートを実施しており、利用者の7割が市内在住、3割が市外在住である。シリウス館内を見ても近隣市町村の学生も多い印象がある。

○委員

各国では、図書館は文化振興の度合いを測ることができると言われており、シリウスも大和市の文

化の度合いを測る指標になるので、図書館の来館者数も見えていけるとよい。昔は研究のために利用するのが本来であったが、現在は、受験勉強等で利用している学生が多い。

芸術文化ホールにおいても、各施設の利用者数を把握していくべきである。

今回のアンケート調査も、文化芸術での活動で利用したのか、それ以外で利用したのか、示していないと分析が難しいと思う。

○事務局

芸術文化ホールでも、所管施設の利用者数は把握しているので、先ほどの芸術文化ホールの運営状況でご報告できるようにしたい。

○委員

問8「大和市の文化施設の利用状況」について、過去3年間の公共施設での文化芸術鑑賞状況を伺っているが、図書館と文化芸術の関わりはあるのか。図書館で文化芸術の鑑賞機会があるのかもしれないが、図書館では本を読んでいる人が多いと予想する。各施設を選択肢にしている意図を示すとよいのではないかと。経年変化を見るためにもこの設問を外す必要はないが、内容は精査した方がよい。

○委員

前回、前々回調査時に比べて、今回の回答率は低い。アンケート用紙にQRコードを付け、デジタルで回答できるように検討してはどうか。学生が主催となって、シンポジウムを開催し、来場者にアンケートを実施したことがある。その際にスクリーンにQRコードを表示し、回答してもらう方法を学生が考案した。我々にはない発想で、若者の発想も参考にできたらよいと思った。

○委員

問10「文化芸術活動に関する必要な情報」について、回答から広報の方法が変わってきていることがうかがえる。10代、20代はテレビやラジオからは情報は得ておらず、逆に60代から80代はSNSでは情報を得ていない。このことから、市民全体の意向を聞きたい際に、アンケートの調査方法によっては、意図的にその世代から回答を得たいために実施したのではないかなと言われかねない状況になってくるのではないかと。

○委員

計画期間内にアンケート方法を変更してしまうと数値に影響してしまうので、アンケートの回答方法は変更しない方がよい。変更するのであれば次期計画策定時がよい。

○委員

回答者の階層ができているような気がする。アンケートを書くのが好き、アンケートを積極的に回答したい人が回答しているのではないかと。

○事務局

回答率については、市民意識調査では30%を超えるとよい方である。文化芸術は回答しやすい分野なので、30%を切ってしまったのは、意外ではあった。紙媒体での回答方法が古い時代になり、今後デジタル化に対応しなければならない。また、計画期間内にアンケート方法を変更してしまうと、対象者や傾向が変わってしまうので、次期計画から見直していきたい。

○委員

自由記述については、後日事務局に意見を伝えてほしい。

4 その他

○市より、今後の審議会の日程について説明。

○委員より、自身の活動について説明。